



# みえ災害ボランティア支援センター 令和元年東日本台風 被災地支援 活動報告書



## ごあいさつ

2019年も日本各地で災害が多発してしまいました。8月には九州北部での豪雨で佐賀県にある鉄工所から油が流出する事態となり、9月には千葉に令和元年房総半島台風が上陸して広範囲での停電と断水、そして多くの家屋の屋根に被害がでました。その対応も中途の10月には令和元年東日本台風、第21号が相次いで上陸し、中部から関東東北の広い範囲で河川の氾濫や浸水被害をもたらしました。三重県でも志摩市や伊勢市、尾鷲市、東員町などで被害が発生しました。

毎年のように災害が起こるなら、その備えや支え合う取り組みは日々の生活習慣として、また仕組みとしてわたし達の中に根ざしておく必要があると感じます。

わたし達が今年も企画し、多くの方の力を得ることで実施させて頂いた「みえ発！ボラパック」のようないわゆる「災害ボランティアバス」事業も、そんな災害復興のために欠かせない仕組みの一つとして多くの方に根ざし始めていると感じます。

被災された方が一日でも早く“当たり前”の生活を取り戻すためにわたし達は何ができるか？

この報告書を通じ、「みえ発！ボラパック」がどのような方々の支えと想いによって実現していったのかを感じ取っていただくと共に、ぜひ「災害ボランティアバス」事業に関心を持って頂き、それぞれの地元から被災地に駆けつけたいと思うボランティアの方々が、気兼ねなく被災された方のそばに駆けつけられるような取組が広がることを期待しています。

令和元年台風第19号被災地支援 みえ災害ボランティア支援センター長  
山本康史



はじめに、令和元年東日本台風でお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

この度の台風では、広範囲にわたって甚大な被害がおよび、尊い命が多数奪われました。多くの市民が参加したことで、後に「ボランティア元年」と呼ばれるようになった1995年の阪神・淡路大震災を契機に発足したみえ災害ボランティア支援センターでは、今回、長野市へのボランティアバス「ボラパック」の運行やボランティア活動に役立つ情報提供等を迅速に実施いただきました。その結果、ボラパックで初めて活動された方や一昨年のボラパックで知り合った仲間ですら活動をされた方など、多くの方が被災地でのボランティア活動に携わっていただく大きな原動力となりました。

こうして被災地で活動された皆さんや、寄付や運営という形でみえ災害ボランティア支援センターの活動を力強く支えられた皆さんに改めて感謝申し上げますとともに、今回の貴重な経験が、地元三重での備えにつながることを大いに期待します。

かけがえない命と大切な暮らしを守るためには、自助、共助、公助の3つの力を結集し、時には外部の力を得て対応する活動体制づくり、活動を担う人づくり、活動環境づくりが極めて重要です。県では、県民の皆さんとの協創のもと、過去の災害の経験や教訓から学び、防災の日常化を図り、ソフト・ハード両面で防災・減災対策に鋭意取り組んでまいります。

多様で包容力のある持続可能な社会、そして未来への夢や希望を持ってチャレンジできる社会に向け、災害に強くしなやかに対応できる三重を共に創っていきましょう。

三重県知事 鈴木英敬





# 支援センター設置～活動内容の決定まで

みえ災害ボランティア支援センターは、三重県内または近隣府県で災害が発生した場合に、災害ボランティア活動が円滑に行われるよう、情報の収集・提供や、県民の方がボランティア活動に取り組むための様々な支援活動を行います。

令和元年東日本台風についても、幹事団体が臨時会を開催し、その決議を受けて「令和元年台風第19号被災地支援 みえ災害ボランティア支援センター」（以下「支援センター」という）が設置されました。

## 1, 設置の必要性検討

2019年10月16日 幹事団体が集まり、臨時会を開催

- 県内外の被害状況の中でも特に県外の被害が甚大なことを確認。
- 県外の被災地において、災害ボランティアの募集が実施されている。
- 県内から支援に行きたいと考える方がいることが想定される。



みえ災害ボランティア支援センターの設置を決定

設置日：2019年10月17日

センター長  
山本康史氏（みえ防災市民会議 議長）  
副センター長  
明石典男氏（三重県社会福祉協議会 参事）

## 2, 課題の洗い出し・活動内容の検討

【被災地の状況】

- 東北から東海までの広範囲にわたって甚大な被害が発生。
- 初期段階では、各地の被害状況、ニーズが把握できていないため、先遣隊による情報収集が必要。
- 被災地には積雪地帯が多くあり、早いところでは12月中旬以降、積雪の可能性があるため、短期でボランティア活動を行わなければならない、多くの人手が必要。

【県内ボランティアの状況】

- ボランティアバスの運行をする場合、長期休暇のシーズンではないため、平日は日帰り、週末は1泊2日の活動であること、津に加えて四日市でも乗降ができると参加しやすい。
- 気持ちがあっても、支援の仕方が分からない人がある。
- すでに現地で活動を開始された団体がある。
- これから活動を行おうとしている人への後方支援も必要。

## 3, 活動内容の決定まで

① 県外からのボランティアを募集している地域までの三重県からの距離比較

宮城県	700km ~ 800km
福島県	600km ~ 700km
茨城県	550km
栃木県	450km ~ 500km
長野県	360km

② 先遣隊からの長野県の情報

- 泥出しや家財の搬出など人手の必要な作業が多数あるが、人が足りておらず、しかも泥の種類は粘度が高く、昨年の広島県に比べると必要な人数が多い。
- 現地ボランティアセンター関係者等との調整が可能。



③ ボランティア需要が高いこと、三重県から一番近く、日帰り又は1泊2日で行けることから「長野県（長野市）」を支援先として決定

④ 活動内容の決定

- 先遣隊による情報を活用し、各自のボランティア活動が行いやすいよう被災地の状況（交通情報、駐車場、宿泊など）に関する情報を、随時特設ブログなどにより提供していく。
- ボランティア活動を行いたいけど手法が分からない個人のニーズに応えるため、災害ボランティアバス（ボラパック）を企画する。
- 団体として活動する人には、県からの補助金により資金援助を行う。

## 《みえ発！ボラパック》とは

大災害が起こり、ボランティア活動が始まったという情報を見聞きした時に、少しでも被災者の力になりたい！災害現場へボランティア活動に行きたい！という想いを抱く方がいます。しかし、災害ボランティアのノウハウがないため、様々な不安要素（費用、交通手段、現地状況など）により、せっかくの想いが潰れてしまいます。

そのような方が、1人でも不安を感じることなく安心して、また、友人や仲間に声を掛けてみんなでボランティア活動が出来るよう、支援センターでは、災害現場行きのボランティアパックツアー（通称：みえ発！ボラパック）を行いました。

## 《みえ発！ボラパック》のポイント

### ○参加者の中から経験者や技能を持った方にコーディネーター/サブコーディネーターを依頼

- ・コーディネーターは全体の進行管理やバス運転手等との調整、支援センターとの連絡を担当。

### ○事前に経験者等を考慮した班を編成

また、出発時に班内の参加者同士での話し合いにて、各班のリーダーを決定

- ・リーダーは自治会長や住民との窓口を担当して、作業指示を参加者に周知。また、安全担当を担い、健康管理やケガの対応を行う。

### ○チーム「みえボラ」としての活動をする事で、現地の方々との信頼関係をつくとともに、安全性を高める

#### ●出発時には、1時間程度のオリエンテーションを実施

- ・個人ではなくチーム「みえボラ」の一員として活動に関わるよう呼び掛ける。
- ・班内の参加者同士で自己紹介や2人1組のバディを組む。
- ・安全第一の心構えについて、具体的なリスクと予防策について注意喚起を行う。

#### ●現地では共通のオレンジビブスを着用して活動することで一体感を出す

#### ●活動終了後にチームで振り返りを行い、気づきやヒヤリハット事例を共有・次の便に引き継ぐ

## コラム 《みえ発！ボラパック》参加者の携行品

行程中と活動時の安全確保のため、参加者には次の携行品を案内しました。  
もちろん、ボランティア保険への事前加入もお忘れなく。

- ・衣類（長袖&長ズボン、防寒着も）、合羽（上下長袖）、帽子 またはヘルメット
- ・ゴーグル または 防塵用めがね（くもり止めもあると便利）、マスク
- ・皮手袋、ゴム張り手袋（普通の軍手は滑りやすいため危険）
- ・ウェストポーチなど活動中に貴重品を身につけられるもの
- ・靴（長靴+安全中敷き（釘踏み抜き防止インソール）または安全靴等）
- ・携帯電話、モバイルバッテリー、筆記用具
- ・飲み物&食べ物（活動初日の朝食&昼食、活動中の間食など）
- ・常備薬（定期的に飲んでいる薬があるなら必ず持参）、洗面用具、タオル
- ・身分証明書（運転免許証など）、健康保険証、現金
- ・汚れた靴や合羽を入れるビニール袋 など



## 《みえ発！ボラパック》の流れ

《みえ発！ボラパック》に参加すると、どのような流れでボランティア活動ができるのか、集合から解散までの流れを簡単に紹介します。

今回のボラパックにおいては、平日便（日帰り）と休日便（1泊2日）の2便を設定し、また、バスの乗車地にアスト津と県四日市庁舎の2箇所を設けました。ここでは休日便（1泊2日）を例に、行程をご紹介します。

### 行程

#### ■ 出発日

20:00	コーディネーター・サブコーディネーター 事前ミーティング活動
20:30	アスト津 集合
20:45～21:45	全体オリエンテーション ・行程説明 ・ボランティアに向かうにあたっての注意事項 ・同じ班の方との交流、リーダー決め など
22:00	アスト津 発 ・三重県四日市庁舎を經由して長野県へ

#### ■ 活動1日目

6:00	小布施温泉「あけびの湯」 着（仮眠・朝食・入浴）
8:15	「あけびの湯」 発
9:00	長野市北部災害ボランティアセンター 「りんごサテライト」 着
9:30～15:00	現場作業 ※P6 活動内容参照
16:00	「りんごサテライト」 発
～17:00	「ツルヤ小布施店」にて翌日の朝食、昼食、お土産購入
～19:15	「あけびの湯」（入浴・夕食）
20:00	宿泊施設 着 第1便、第3便「健康福祉センター」 第5便、第6便「宿坊『常智院』」 ※宿泊施設では、活動のふりかえりを行います。

#### ■ 活動2日目

8:00	宿泊施設 発
9:00	長野市北部災害ボランティアセンター 「りんごサテライト」 着
9:30～14:30	現場作業
15:00	「りんごサテライト」 発
～16:30	「あけびの湯」にて入浴・着替え 発
22:30	三重県四日市庁舎 着
23:30	アスト津 着



事前ミーティング活動



全体オリエンテーション



バスの見送り（津）



現場作業



ふりかえり



バスのお迎え（四日市）

## 《みえ発！ボラパック》各便とその活動内容

延べ参加人数 177名

### 第1便（11月8日～11月10日）

（参加人数）37名（男性：29名、女性8名）

（活動内容）

- 泥出し（床下・風呂・トイレ・りんご畑）
- 土壁の撤去
- 家屋内の清掃



### 第2便（11月10日～11月11日）

（参加人数）40名（男性：31名、女性9名）

（活動内容）

- 泥出し（倉庫・床下・庭・りんご畑）
- りんごサテライト本部での庶務



### 第3便（11月15日～11月17日）

（参加人数）19名（男性：15名、女性4名）

（活動内容）

- 泥出し（りんご畑）/泥運び
- 清掃/消毒（床下、床）
- 窓拭き



### 第4便（11月20日～11月21日）

（参加人数）22名（男性：13名、女性9名）

（活動内容）

- 泥出し（床下）/泥運び
- 家屋内の清掃
- 家財・瓦礫の搬出



### 第5便（11月22日～11月24日）

（参加人数）28名（男性：22名、女性6名）

（活動内容）

- 泥出し（床下・家屋周辺・りんご畑）
- 漂着物・瓦礫の搬出



### 第6便（11月29日～12月1日）

（参加人数）31名（男性：21名、女性10名）

（活動内容）

- 泥出し（りんご畑）
- 家屋内の清掃
- 家財・漂着物・瓦礫の搬出





## 《みえ発！ボラパック》参加者の声

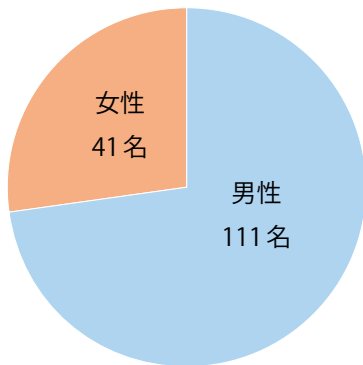
種類	コメント
助け合い に関すること	初めてのボランティアで緊張したけれど、周りからの助けを受けて良い経験となった。
	班編成をしていただいたので、相互に助け合い思いやる精神が育まれた。
	現地で活動しているうちに災害前には私たちと同じような日常があると思うようになり、少しでもその状態に戻れるようにしたいという気持ちになり、とても良い経験になった。
みえ発！ボラパック ならではの感想	振り返りの時間は皆さんの体験を共有でき、とても参考になります。
	出発前のオリエンテーションが良かった。参加者の皆さんの活動の方向性が同じになった。
	なかなか自分だけで現地に向かうのは難しいのでボラパックを頼りにしています。
	個人で行くよりこのような形で参加するほうが効果があり素晴らしいです。
	現地との連携をとって下さり、個人参加では出来ないスムーズな活動が出来て良かった。
	単独で現地へ行くことに迷いがありボラパックに参加した。ノウハウが整っており、とても良い取り組みだと感じた。
	一人ひとり小さいが力を合わせれば大きく支援の力となることが実感できました。
	班行動や入浴・休憩など、良く考えられたシステムで活動に集中して取り組めた。
	ボランティア経験者（ベテラン、リピーター）が多く驚きました。システムも年季が入っている感じです。効率よく時間を有効に使い、充実した2日間でした。
	初めての参加で慣れない作業ばかりだったけど、ベテランの方達のサポートのおかげで怪我無く終わられたので良かったです。
活動前後に温泉に入れたのは良かったです。もう少し時間が欲しかった。	
2回目の参加。1回目に「ああすればよかった」と悔やんだことが今日はできた。	
みなさんの温かい心に触れて、とても居心地良かったです。	
安全確保 に関すること	足元の注意に気をとられて、頭上を木材にぶつかることがあった。ヘルメットを着用していたため、大事には至らずに済んだ。
	釘が長靴を貫通すると初めに忠告を受けていたので、実際現場に行つて釘を見つけた時、注意して活動することができた。
	粘土質の泥が多く、何度も転びそうになった。
	フローリング材の搬出が多く、多数の釘がついた板は気を付けて扱うが、足元に落ちている小さな端材に突き刺さっている釘には案外気にならず歩くことがあり、注意が必要。
※保険対応はできませんが、十分な注意が必要です	配線が切れているものが束になってあり、床下から上がる時に引っかかりそうになった。今までの現場より危ない箇所が多く、災害ボランティアは甘くないと感じた。
	運んでいたトタンが目当たりそうだった。
	太い針金が土に埋もれていて、引っ張り出すときに跳ねてヒヤッとした。
現地の感想 に関すること	想像以上に身体的にキツイ時もありましたが、被災者の方の顔や言動が少しでも明るくなりますよなにとがんばりました。
	思っていたよりも大変だったが、被災者の方に感謝してもらえて参加して良かったと思えた。また想像よりも復興が進んでいなくて驚いた。
	突然の災害で生活が大きく変わってしまう恐ろしさを感じた。
	テレビで見ていたより厳しい状況で、少しでも助けになれて参加して良かったです。
	少しの作業しかできませんでしたが、家主さんの笑顔が見れてそれが全てです。
リンゴが木になっているところを見るのは初めてでした。	
活動の広がり に関すること	一回一回チームや班が解散してしまうのは少しもったいない気もします。登録制にして気心の知れた同志で出来たら良いかと思いました。
	この活動が全国に広がり、いつでも助け合える体制が出来たら良いと思います。
	募金することに意味はあると思います。でも、実際に場所に出向いて自分自身で見て感じるが一番だと思います。



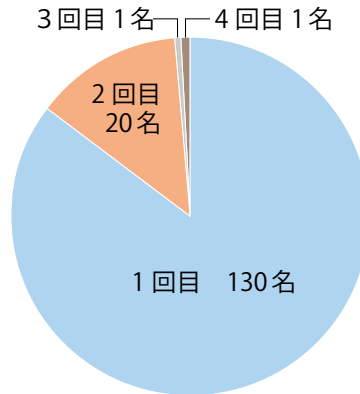
# 《みえ発！ボラパック》参加者の傾向

実参加人数 152名、延べ参加人数 177名

## ■ 実参加人数



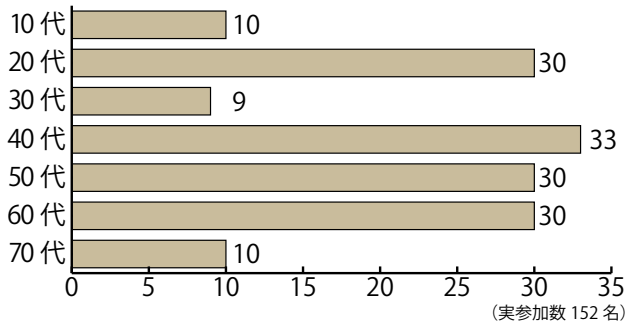
## ■ ボラパック参加回数



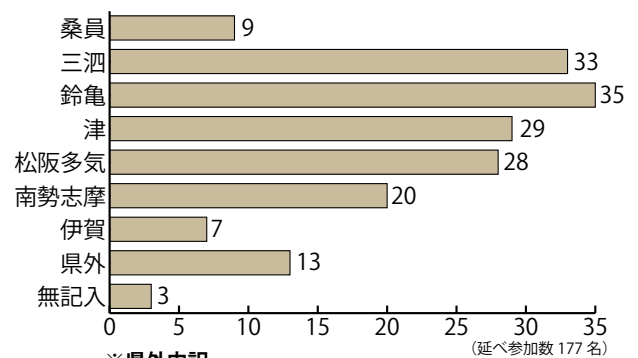
### アンケートより 参加者のボランティア経験

- ・他のボラパックに参加  
…35名
- ・他の災害ボランティアに参加  
…51名

## ■ 参加者の属性（年齢）（職業別・男女別）

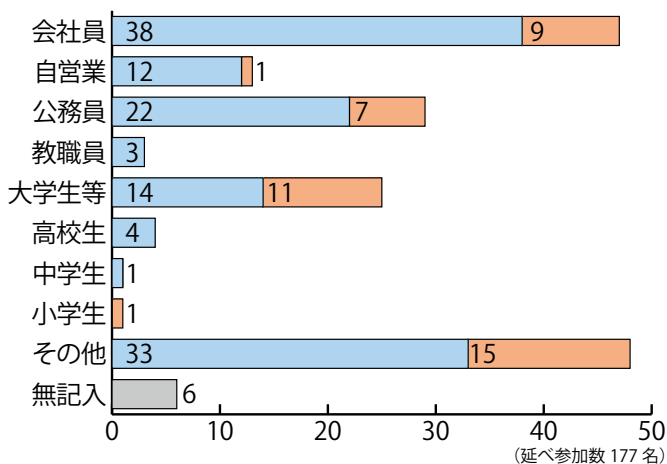


## ■ 参加者の居住地

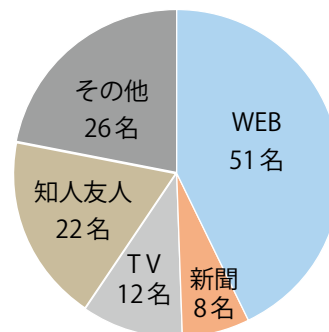


### ※県外内訳

- …愛知県 7名
- …奈良県 4名
- …滋賀県 1名
- …和歌山県 1名



## ■ 活動を知ったきっかけ（アンケートより）

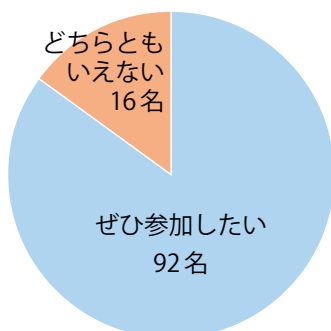


### その他の主な内訳

- ・会社職場での呼びかけ、メール
- ・みえ市民活動ボランティアセンター

※複数回答可

## ■ 今後もこのような活動に参加したいですか（アンケートより）



### どちらともいえない主な理由

- ・自分の体調と家族の都合が良い日があれば参加したい
- ・その都度検討したい
- ・みなさんの活動を見ていて自分で役に立てるか不安がある
- ・宿泊先の宿坊がとても快適で、この快適さを覚えてしまうと今後…





## 《みえ発！ボラパック》ふりかえり会

令和元年東日本台風被災地支援で《みえ発！ボラパック》長野行きを企画したところ、延べ177名が計6便のバスを利用し、被災者支援活動を行いました。

この活動を今後活かしていくため、様々な役割を担った方々が集まり「ふりかえり会」を開催しました。

日時	2019年12月21日（土）13:30～16:00
場所	三重県吉田山会館 206 会議室
参加者	ボラパック参加者、事務局スタッフ 事務局ボランティア（送迎対応サポートなど） 幹事団体会員 計22名



### 【内容】

- ボラパック活動報告（活動概要、支援金報告、収支状況報告）
- 県内社会福祉協議会ブロック派遣 概要紹介
- 意見交換

まず、今回の様々な活動を通して得た学びを班単位で出し合っていただき、次の2つのテーマについて発表していただきました。

### 1 これから被災地に何ができるか

- ・長野市へ旅行・観光に行く、物品を購入する
- ・りんご園など農業関係への支援
- ・忘れない「〇〇さん、どうしてるかな？」
- ・関心を持ち続け、発信していく など

### 2 備えておきたいこと

- ・住民とのパイプ役となる方との連携を強めておく
- ・重機ボランティアとの連携
- ・ボラパックを主催できる団体を増やす
- ・自分事、日常化 など





## 《みえ発！ボラパック》事務局の取り組み

支援センターは、設置から閉鎖まで、事務局ボランティアとして登録いただいた方や、三重県ダイバーシティ社会推進課を中心に幹事団体の担当者同士が協力しあって事務局を運営しました。広報や受付、リストや資料の整理、渉外業務などを行い、バスを出す時には担当の幹事団体と連携してバスを現地に向け送り出しました。

### 【バス出発前日まで】

事前事業実施の告知や申し込みの対応、受付内容確認と参加確定の連絡、コーディネーター・サブコーディネーターの人選と事前連絡などを行いました。また、バスの手配や準備として、行程の管理（冊子の修正など）と配布の準備、バスの積み込み荷物の準備などを行いました。



### 【現地の活動を実施】

現地の状況確認や天候などを確認し、津及び四日市から参加者の見送りを行いました。現地への往復や、現地で活動している間、コーディネーターの方と連絡を取り合い、不測の事態に備えました。



### 【バスが帰ってきてお迎え】

現地での活動が終わり、四日市及び津に戻ってくる時には、参加者のお迎えを行いました。その後、荷下ろしや片付けを行いました。

## 活動カレンダー

日付	会議	主な出来事
10月12日		令和元年東日本台風 伊豆半島に上陸
10月13日		各地に大雨特別警報が発表される。東海、関東甲信越、東北で大災害発生
10月16日	臨時会	「令和元年台風第19号被災地支援 みえ災害ボランティア支援センター」を翌日17日に設置することを決定しプレスリリース
10月17日		みえ災害ボランティア支援センター設置、センター長に山本康史氏が就任 災害時NPO活動支援事業【継続支援活動補助金】の交付団体および寄付金の募集開始
10月18日		先遣隊を長野県などへ派遣（～20日）
10月21日	臨時会	《みえ発！ボラパック長野行き》（以下、「ボラパック」と表記）の実施を決定
10月25日	臨時会	
10月30日	臨時会	
11月1日		ボラパック第1弾（第1～2便）募集開始、事務局スタッフを配置（～11月30日）
11月5日	臨時会	令和元年東日本台風被災地支援に向けた4つのアクションプラン 策定
11月8日		ボラパック（第1便）出発（週末便：37名）→10日帰着 ボラパック第2弾（第3～6便）募集開始
11月10日		ボラパック（第2便）出発（平日便：40名）→11日帰着
11月12日	幹事会	
11月15日		ボラパック（第3便）出発（週末便：19名）→17日帰着
11月18日	臨時会	
11月20日		ボラパック（第4便）出発（平日便：22名）→21日帰着
11月22日		ボラパック（第5便）出発（週末便：28名）→24日帰着
11月25日	臨時会	
11月29日		ボラパック（第6便）出発（週末便：31名）→12月1日帰着
12月11日	幹事会	
12月21日		ふりかえり会 開催（22名）、事務局スペース縮小
1月7日	幹事会	
2月10日	幹事会	
3月9日	幹事会	みえ災害ボランティア支援センター 閉鎖

## みんなの えがおが みたいから

みえ災害ボランティア支援センター (MVSC) とは、大規模災害発生時に災害ボランティア活動が円滑に行われるよう支援するため、三重県と民間のボランティア関係組織等が協働で運営する組織です。

平時は会議体として月1回の幹事会などを運営していますが、災害が発生した際には、三重県地域防災計画および設置マニュアルに基づいて、みえ災害ボランティア支援センターを設置し、市町単位や分野ごとに設置される災害ボランティアセンターの後方支援や被災地外からのボランティア・NPO 団体などへの情報提供、現地災害ボランティアセンター間のネットワーク化など、災害ボランティア活動の広域的な支援を行います。

### 【基本理念】 官民協働で取り組みます。

地震や水害などで被災した方が、あたり前の生活を送れるようになるためにボランティア・NPO 団体や三重県で活躍する企業、大学・学校、行政等が協働して三重県民による多様なボランティア活動を盛りあげていきます。

### 【基本原則】 5つの基本原則に従って活動します

1. 被災した場所や状況によることなく、また、年齢、性の自認、国籍等を問わず全てのひとを支援し、地域社会や文化、自然を大切にします
2. 常に被災者、被災地主体の考え方に立ち、被災者や被災地が自立した復興を果たせるような支援活動を行います
3. 三重県民や県内の企業、大学や学校、ボランティア・NPO 団体等が取り組むボランティア活動を、信条や活動方針、団体の成り立ちを問わず支援します
4. ボランティア活動が被災者・被災地にとって最大限の効果を発揮できるよう、その活動の主体となる団体・個人と共に努力し続けます
5. センターに関わる団体や個人がお互いの行動倫理を尊重し、被災者の自立を支援するという基本理念を共有して、協働で事業を実施します

## 収支報告

【収入の部】

(円)

予算科目	金額	備考
繰越金	1,048,366	
寄附金	2,522,582	活動支援金 (2月29日まで)
助成金 (日本財団)		申請中
助成金 (三重ボランティア基金)	500,000	
助成金 (共同募金会)	929,000	交付決定通知受理
参加負担金	1,502,000	ボラバック参加者負担金 (1~6便)
予備費	10	利息
合計 (A)	6,501,958	

【支出の部】

(円)

予算科目	金額	備考
ボランティアバス運行事業費	3,475,800	第1便~第6便バス運行費
事務局人件費	183,249	事務局スタッフ賃金等
旅費交通費	172,540	先遣隊旅費、現地調査旅費
消耗品費	128,016	ボラバス用事務用品、携帯電話 他
印刷製本費	12,089	支援金チラシ印刷
手数料	9,240	振込手数料
通信運搬費	27,517	切手代、モバイル通信契約料
委託料	74,800	社労士委託料
合計 (B)	4,083,251	

(円)

差引収支 (A-B)	2,418,707
------------	-----------

令和2年2月29日現在

残金については、今後の災害支援活動に備えた予備費とさせていただきます。

※参考 ボラバック参加者 (第1便~第6便) 延べ 177名

## みえ災害ボランティア支援センター 幹事団体紹介

### 特定非営利活動法人みえ防災市民会議

防災ボランティアコーディネーター養成や地域での防災啓発、災害に備えた県内外団体とのネットワークづくり等に取り組むNPO団体です。

今回のボラパックでは事業の企画・実施、先遣隊の派遣や被災地の受入団体との連絡調整、情報収集・発信のためのホームページ・SNSアカウントの運用、第1便の後方支援担当などを担いました。

### 特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター

特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンターは、「みえ県民交流センター」（アスト津3階）の指定管理者として事業および施設の管理等を行っていることから、幹事団体の一員となっています。

今回のボラパックでは、第5便の担当となりました。また、NPO班が中心となって行っていた事務局の補助業務（時間外への対応、資料整理、雑務等）を行ったりするなど様々な準備を他の団体と連携、協力しながら行いました。

### 三重県ボランティア連絡協議会

三重県ボランティア連絡協議会は、県内の市町ボランティア団体が、相互に連絡調整を行い、ボランティア活動の発展と社会福祉の増進を図ることを目的として設立された団体です。遠隔地の市町ボランティア連絡協議会との連携を深めるためにも、各地で開催する行事等に力を入れ、顔の見える関係を続けることに努めています。

今回のボラパックでは、第3便の担当として四日市から発着される参加者のお見送り、お出迎えなどを他の幹事団体と協働しました。

### 社会福祉法人三重県社会福祉協議会

ボラパックについては出発地である津市、四日市市における参加者の見送り・出迎えや事前準備の補助を他の幹事団体と協力して行いました。

社会福祉協議会は、災害ボランティアセンターの運営団体として期待されることが多くなっています。本年度はボラパックの他、全国域での調整により被災地（栃木市）災害ボランティアセンターの運営支援にも携わりました。

### 三重県子ども・福祉部 地域福祉課

地域福祉課では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域の支え合い体制づくりなどを進めています。また、各地域にて災害が発生した際は、災害義援金の募集情報を三重県ホームページにて情報発信をしています。

今回のボラパックでは、第2便において担当として参加者をサポートし、第4便、第6便においては四日市発着の参加者のお見送り、お出迎えなどを行いました。

### 三重県防災対策部 防災企画・地域支援課

防災企画・地域支援課では、市町の取組を支援するなど地域防災力の向上に取り組んでいます。

今回のボラパックでは、幹事団体と協働し、本活動報告書の作成にも携わりました。また、第4便の担当として参加者をサポートし、第2便においては津発着の参加者のお見送り、お出迎えなどを行いました。

### 三重県環境生活部 ダイバーシティ社会推進課

ダイバーシティ社会推進課では、会計事務、支援センターの窓口として、支援金の受付やボランティア活動に関する問い合わせへの対応などを、支援センターのスタッフと協力しながら行いました。

また、ボラパックの運行など支援センターの活動に関する情報を報道機関へ提供したり、ボラパック参加者への事前連絡や取りまとめ、配布物の準備を他の幹事団体と協力して行いました。

<日本赤十字社三重県支部><(公社)日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会>も支援センター幹事団体の一員です。

### ご支援・ご協力いただいた企業・団体等

○活動支援金について、一定額以上ご協力いただいた団体様（順不同）

日本労働組合総連合会三重県連合会様、三重県労働者福祉協議会様、ひらのきかく舎様、三重県明るい社会づくり運動様、いせ市民活動センター様、川越町ボランティア連絡協議会様、小西行政書士事務所様、鈴鹿市ボランティア連絡協議会様、玉城グランドゴルフの会様、どんぐり様

○活動支援金を多数の企業・団体・個人の皆様からお寄せいただいたほか、バス発着時にホテル玄関先を使わせていただきましたホテルグリーンパーク津様、ボラパック用荷物保管のために場所を提供いただきましたアスト津管理組合様、ボラパック参加者のため深夜まで送迎にご協力いただいたボランティアの皆様など多くの方々のお力添えで活動を実施することができました。

ご支援・ご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

○皆様からいただいた活動支援金の残金については、今後の災害支援活動に備えた予備費とさせていただきます。

### 活動報告書

編集・発行：みえ災害ボランティア支援センター

発行日：2020年3月9日

この刊行物に対するお問い合わせは、下記までお願いします。

〒514-0009 三重県津市羽所町700アスト津3階

三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課 NPO班

TEL：059-222-5981 FAX：059-222-5984

E-MAIL：seiknpo@pref.mie.lg.jp URL：http://mvsc.jp/